

## 心理学理論と心理的支援

問題 8 オペラント条件づけに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 手段と目標との関係に関する見通しを得ることができれば、たとえ初めて経験する場面であっても適切な対応をとることができる。
- 2 目標行動の習得を目指し、スモールステップに分けて段階的に学習させることで、反応形成が可能になる。
- 3 特定の刺激が条件刺激となり、自律神経系に条件反応を誘発することで連合が形成されることが学習成立の前提となる。
- 4 他者が報酬を得たり罰を受けたりする場面を見聞きする間接強化によって、行動の変容をもたらすことができる。
- 5 離巢性の鳥類が生後初めて見た動く対象に追従する行動が認められ、生後初期の学習が重要であることを示している。

問題 9 性格理論に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アイゼンク (Eysenck, H. J.) は、性格の現れとして抑うつを念頭におき、最近1週間における抑うつ重症度を自己評価できる抑うつ性尺度 (BDI) をつくった。
- 2 シェルドン (Sheldon, W. H.) は、精神障害の患者の体型を調べ、それをもとに3つの性格類型を唱えた。
- 3 シュプランガー (Spranger, E.) は、人間の心は3層構造をなしており、その力動的な関係で性格の相違が現れると主張した。
- 4 ユング (Jung, C.) は、内向性と外向性という対立する軸をもとに、性格を類型化した。
- 5 ギルフォード (Guilford, J. P.) は、一般成人の体型を3つに分け、それぞれに特徴的な性格を対応づけた。

**問題 10** 集団心理に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リスキー・シフトとは、集団で意思決定を行う際に、より危険な判断に偏りがちな傾向をいう。
- 2 内集団バイアスとは、自分自身が所属していない集団に対して、異質な存在だと認知して差別的な行動に出る現象をいう。
- 3 モップとは、生命や財産が切迫した脅威にさらされていると認知されたときに起こる、ヒステリックな混乱状況をいう。
- 4 同調とは、集団としての規範を自分自身は受け入れていないものの、他者は当然ながらそれを受け入れていると思い込んでしまう現象をいう。
- 5 傍観者効果とは、他者の存在によって社会的な手抜きが起こることをいう。

**問題 11** 道徳性に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 道徳性は、自律から他律へと移行する。
- 2 社会的慣習のとらえ方が発達とともに変化し、徐々に慣習に縛られた強固な判断へと変わる。
- 3 他者に利益をもたらす行動全般を愛他的行動といい、報酬を期待することなくなされる愛他的行動を向社会的行動という。
- 4 援助行動は、それが道徳的な問題であることに気づくことが必要で、達成動機の発達が不可欠である。
- 5 他者からみるとどのようにとらえられるのかといった社会的視点を調整する能力が、道徳性発達の根底にある。

問題 12 ストレス症状に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 そのままでは他者に受け入れられがたい欲求や感情を、社会的に受け入れられる形に置き換えようとする学習性無力感が生じる。
- 2 ストレスを減らそうと考えて緊張が高まったときに飲酒を繰り返すことで、身体的・心理的な問題や対人関係の問題を引き起こす物質依存が生じる。
- 3 落ち着きがなく、興味のないものに注意を維持できず、楽しいことにはとりとめがなくかかわるといふバーンアウトが生じる。
- 4 自分のもっている能力を活かしたい、自分らしさを何らかの形で発揮したいという自己実現欲求が生じる。
- 5 身体的・精神的に自己を統合できず、「自分とはどのような人間か」がわからなくなるアイデンティティ拡散が生じる。

問題 13 来談者中心療法(パーソンセンタード・カウンセリング)の技法である「感情の反射」に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「母の前では何も言えません」と訴えるクライアントに対し、「お母様のことが怖いのですね」と返答する。
- 2 「どうして私だけが苦しまなければならないのか」と訴えるクライアントに対し、「どうして私だけが苦しまなければならないのかというお気持ちなのですか」と返答する。
- 3 「上司が私を嫌っているから、私ばかり怒られているのだ」と訴えるクライアントに対し、「上司が怒ったときの状況を一つひとつ整理して、実際にあなたが嫌われているからなのかどうかを確認しましょう」と返答する。
- 4 「仕事が大変で気がめいってしまう」と訴えるクライアントに対し、「気がめいってしまうのであれば、楽しいことをして気分転換をしましょう」と返答する。
- 5 「妻に先立たれて、つらいです。悲しいです」と訴えるクライアントに対し、「奥様を亡くされて、おつらいですね。悲しいですね」と返答する。

問題 14 心理療法とその心理療法で用いる概念の組み合わせとして、適切なものを

1つ選びなさい。

- 1 精神分析——自己一致の状態
- 2 行動療法——防衛機制
- 3 心理劇——モデリング
- 4 遊戯療法——ロールプレイング
- 5 家族療法——システム理論

# 心理学理論と心理的支援

問題 8	正答 2
------	------

- 1 誤り。手段と目標との関係に関して見通しを得ることが学習成立の条件と考えるのは、ケーラー (Köhler, W.) が唱えた洞察説 (洞察学習) である。彼は、天井から餌をつり下げた実験室にチンパンジーを入れる実験をした。チンパンジーは餌を見つけたものの手が届かないことを知ると、室内にあった箱を重ねればよいという見通しを得て、すぐに餌を得ることができた。このことから、本説を唱えた。

(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 (第3版)』中央法規出版, 2009年 (以下『心理学理論と心理的支援』中央法規出版), p. 71, 『社会福祉士学習双書①心理学: 心理学理論と心理的支援』全国社会福祉協議会 (以下『全社協』), 2010年 (以下『心理学: 心理学理論と心理的支援』全社協), pp. 25~26)

- 2 正しい。スキナー (Skinner, B. F.) が唱えたオペラント条件づけにおいて、反応形成 (行動形成) をするためのスモールステップの原理について述べたものである。反応形成は「シェイピング」とも呼ばれる。オペラント条件づけは、生体が環境に積極的かつ自発的にはたらきかけて新たな行動や反応を形成していく過程を重要視した理論である。

(『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー②心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, 2008年 (以下『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版), pp. 30~32, 『心理学辞典』有斐閣, 1999年 (以下『心理学辞典』有斐閣), p. 479)

- 3 誤り。パブロフ (Pavlov, I. P.) が唱えた古典的条件づけ, あるいはレスポナント条件づけの説明文である。例えば, ブザー音という条件刺激だけでは唾液分泌という反応は起こらないが, 条件刺激と餌という無条件刺激を繰り返し対提示すると, ブザー音だけで唾液分泌が起こるようになる。これは, ブザー音と餌の連合が形成された結果だとパブロフは考えた。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 66~67, 『MINERUVA 社会福祉士養成テキストブック21心理学理論と心理的支援』ミネルヴァ書房, 2014年 (以下『心理学理論と心理的支援』ミネルヴァ書房), pp. 31~32)

- 4 誤り。間接強化で学習が成立するというのは, バンデューラ (Bandura, A.) の観察学習である。強化とは, 反応の生起頻度を高める操作で, 学習中の生体が実際に強化を受けるのを直接強化, 他者が褒められたり叱られたりするのを見聞きするのを間接強化という。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 71, 『心理学辞典』有斐閣, pp. 139~140)

- 5 誤り。出生直後や出生後間もない時期に経験するこ

とが, その後の行動を大きく左右する。このような学習が初期学習で, その代表が選択肢にあるローレンツ (Lorenz, K.) によって命名されたインプリンティングであり, 初期経験とも呼ばれる。

(『心理学理論と心理的支援』ミネルヴァ書房, p. 34, 『心理学辞典』有斐閣, p. 422)

問題 9	正答 4
------	------

- 1 誤り。抑うつ の重症度を調べられる尺度を作成したのはベック (Beck, A. T.) であり, 彼の名前をとってベック抑うつ性尺度 (BDI) と呼ばれる。抑うつ気分, 罪悪感, 自己嫌悪, 食欲減退など21の抑うつ症状をもとに診断が下される。アイゼンクが開発した検査には, モーズレイ性格検査 (MPI), アイゼンク性格検査 (EPI) がある。

(『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, pp. 132~133, 『心理学辞典 (新版)』誠信書房, 2014年 (以下『心理学辞典』誠信書房), pp. 556~557)

- 2 誤り。統合失調症, 気分障害, てんかんの3つの病気の患者の体型を踏まえて, それぞれの性格として, 分裂気質, 躁うつ (循環) 気質, 粘着気質を対応づけたのはクレッチマー (Kretschmer, E.) である。シェルドンは, 一般成人の体型をもとに, 性格を, 身体緊張型, 頭脳緊張型, 内臓緊張型に分けた人物である。

(『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, pp. 42~43, 『心理学: 心理学理論と心理的支援』全社協, pp. 50~51, 『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 13)

- 3 誤り。イド (エス), エゴ (自我), スーパーエゴ (超自我) という3層構造をもとに性格を分けたのはフロイト (Freud, S.) で, 構造論と呼ばれている。シュランガーは, 何に志向して生きるかをもとに6つの型に分類した。

(『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, pp. 44~45, 『心理学辞典』有斐閣, p. 38, pp. 308~309, p. 399, p. 592)

- 4 正しい。リビドーを一般的で心的なエネルギーとして位置づけ, 類型化したのがユングである。リビドーが外界に向かい外部の刺激に影響を受けやすい外向型と, リビドーが内界に向かい自己に関心が集中する内向型である。フロイトもリビドーという用語を用いているが, フロイトの場合は性的なエネルギーとしている点が大きく異なる。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 13~15, 『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, pp. 43~44)

- 5 誤り。一般成人の体型をもとに性格を3つに類型化

したのはシュルドンである。ギルフォードは、因子分析を使って基本となる性格特性を抽出した。このうちの12個の性格特性をもとに構成されたのが、矢田部ギルフォード性格検査 (YGPI) である。

〔『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p.16, 『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, p.44〕

問題 10	正答 1
-------	------

- 1 正しい。個人で判断する場合と比較して集団討議によって判断を下す場合、より危険性の高い決定になりがちである。ただし、項目によっては集団討議のほうがより緩やかな判断になることもあり、コーシャス・シフトと呼ばれている。両者を併せて「集団極性化」という。

〔『最新心理学事典』平凡社, 2013年 (以下『最新心理学事典』平凡社), p.331, 『心理学辞典』有斐閣, p.879, 『心理学: 心理学理論と心理的支援』全社協, p.68〕

- 2 誤り。選択肢の説明は内集団バイアスではなく、外集団バイアスのことである。内集団バイアスは内集団ひいきとも呼ばれ、自分自身が所属していると意識している集団を優遇したり、高く評価したりすることで顕在化する。

〔『最新心理学事典』平凡社, p.332, 『心理学辞典』有斐閣, p.647〕

- 3 誤り。選択肢の説明はモップではなく、パニックのことである。モップは「暴衆」や「乱衆」と訳される用語で、テロを起こすような危険な集団から、パーゲンセールに殺到する集団まである。パニックは、恐怖や不安にかられた人が起こす混乱状況である。

〔『心理学辞典』有斐閣, p.698, pp.794~795, 『心理学理論と心理的支援』ミネルヴァ書房, p.62〕

- 4 誤り。選択肢の説明は同調ではなく、集合的無知のことである。例えば、国のリーダー的な人物が亡くなった場合、自分自身は日常生活を普通に送ろうと思うものの、当然ながら周囲は喪に服すはずだと考え、行動を自粛してしまうことなどを指す。

〔『社会心理学事典』丸善出版, 2009年, pp.300~301〕

- 5 誤り。傍観者効果が生じるのは責任の分散が起こるからである。援助を求めている人がいるとき、自分以外にも他者がいることで、自分が手助けしなくても誰かがやるはず、自分がすべての責任を果たす必要はないと考えてしまうために援助行動が起こりにくい。社会的手抜きは、1人でやるときよりも集団になると作業量が減少することで、1人当たりの作業量がわからない場合に起こる。

〔『心理学: 心理学理論と心理的支援』へるす出版, pp.48~49, 『心理学辞典』有斐閣, p.793〕

問題 11	正答 5
-------	------

- 1 誤り。「道徳性は、他律から自律へと移行する」と主張したのはピアジェ (Piaget, J.) である。親や大人が言ったことはすべて正しいと考え、それに拘束されてしまう段階が他律であり、自分はどうか判断するかを重視し、仲間との協同という意識のもとにある段階が自律である。

〔『パーソナリティ心理学ハンドブック』福村出版, 2013年, pp.205~206, 『心理学辞典』有斐閣, pp.632~633〕

- 2 誤り。道徳的なジレンマ事態に対する対応の仕方から、慣習に従う以前の水準である前慣習的水準、慣習を絶対的なものとみなす慣習的水準、慣習を踏まえつつ自分なりの判断が可能になる後慣習的水準があると指摘したのはコールバーグ (Kohlberg, L.) である。

〔『心理学辞典』有斐閣, pp.632~633, 『心理学辞典』誠信書房, p.212〕

- 3 誤り。選択肢の愛他的行動と向社会的行動という用語が逆になっている。他者に利益をもたらそうとする行動全般は向社会的行動で、そのうち他者の利益のために報酬を期待せずに行う自発的な行動が愛他的行動、あるいは愛他行動で、ボランティアをイメージすればよい。言い換えれば、報酬を得ながら他者のために行う行動は、愛他的行動とはみなされない。

〔『心理学辞典』有斐閣, p.3, 『心理学辞典』誠信書房, p.265〕

- 4 誤り。道徳的な事態に遭遇したことを的確に判断するには、達成動機ではなく共感性の発達が必要となる。共感性は思いやりの情動的基盤をなすもので、他者の感情を予期し、その心情を推し量ることで、道徳的な行動が起こることにつながる。

〔『最新心理学事典』平凡社, pp.558~559, 『心理学辞典』誠信書房, pp.211~212〕

- 5 正しい。セルマン (Selman, R. L.) の指摘では、道徳的な判断が発達するには社会的視点が不可欠であり、自他の視点が分化できていない水準、それが分化するものの主観的な水準、自己を内省的に見つめられるだけの水準、自他の視点を第三者的な視点でとらえられる水準、社会全体の中で多様な他者の視点をとらえられる水準に分けている。

〔『心理学辞典』誠信書房, pp.210~212, 『最新心理学事典』平凡社, pp.558~559〕

問題 12	正答 2
-------	------

- 1 適切でない。選択肢の説明は学習性無力感ではなく、防衛機制の昇華の説明である。防衛機制は、心理的な適応状態を保つためにとる行動である。学習性無

力感とは、対処することができない事態に長期間さらされることで、無気力、ひきこもり、活動性の低下をみせる心理状態である。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 51, p. 170)

2 **適切**。ストレスを減らそうと考えて、コーヒーや紅茶、タバコ、アルコール(酒)、鎮痛剤などの物質を利用することは多くみられる。それが背景になって二次的に身体的・心理的・対人関係的な問題が生じると、物質依存や物質乱用という物質関連障害になる場合がある。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 175)

3 **適切でない**。選択肢の説明はバーンアウトではなく、注意欠如・多動症の説明である。注意欠如・多動症は、不注意が強く、多動性で落ち着きがなく、衝動性を制御できないという症状がある。バーンアウトは、ヒューマンサービスの現場で生じやすく、情緒的消耗感、対象者と距離をおく姿勢、目的意識や責任感の喪失、個人的達成感の低下などの症状が生じる。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 141~143, pp. 170~172)

4 **適切でない**。マズロー(Maslow, A. H.)の欲求階層説における最も高次の欲求である自己実現欲求は、ストレス症状ではない。欲求階層説では、まず生存に不可欠な要素から欲求が始まり、次第により人間らしい社会的な欲求が高まっていくことを表している。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 40~41)

5 **適切でない**。エリクソン(Erikson, E.)の発達段階説における青年期の課題は、ストレス症状ではない。青年期には、アイデンティティ(同一性)の獲得が課題となり、それを達成すると、身体的・精神的に自己を統合し、「自分とはこういう人間だ」というアイデンティティを確立することができる。しかし、青年期は身体的・精神的に不安定なため、アイデンティティ拡散(同一性拡散)の状態に陥りやすい。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 128~130)

問題 13	正答 5
-------	------

1 **誤り**。選択肢の技法は、「感情の明確化」という技法である。「感情の明確化」とは、クライアントが表現できない、述べることができなかつたり、ためらっている感情を共感的に理解し、クライアントがその感情を明確にできるように促すことである。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 196)

2 **誤り**。選択肢の技法は、「表明内容の繰り返し」という技法である。「表明内容の繰り返し」とは、ク

ライアントが述べたことを可能な限り言葉どおりに、丁寧に繰り返すことである。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 196)

3 **誤り**。選択肢の技法は、論理情動理論(論理療法)に基づく「不合理な信念」を「合理的な信念」に変えるという技法である。エリス(Ellis, A.)によれば、クライアントの不安などの否定的感情や悩みは、「不合理な信念」によって生じるのであるから、それを変えれば悩みを軽くすることができるということである。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 198~199)

4 **誤り**。選択肢の技法は、ストレスへのコーピングのうちの情動焦点型コーピングの提案である。情動焦点型コーピングとは、ストレスそのものに対処するのではなく、ストレスによってもたらされる情動を統制、軽減しようとする対処方略である。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 178~179)

5 **正しい**。「感情の反射」の技法では、クライアントの表明した感情を、共感をもって返す。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 196)

問題 14	正答 5
-------	------

1 **適切でない**。自己一致の状態は、パーソンセンタード・カウンセリング(来談者中心療法)が求める条件の1つである。パーソンセンタード・カウンセリングでは、心理療法におけるクライアントとの関係の中で自己が一致しており、全体的統合をもっていることを必要十分条件としている。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, pp. 195~196)

2 **適切でない**。防衛機制は、精神分析における自我のはたらきのことである。精神分析では、防衛機制が過剰になってしまうと現実適応が難しくなり、神経症となると考える。精神分析による治療では、神経症を生じさせている無意識のエスの活動と、意識的世界の自我の活動とが適切にかかわるような援助を行う。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 197)

3 **適切でない**。モデリングは、行動療法で用いる方法の1つである。モデリング(社会的学習理論)のことを、観察学習とも呼び、他者の行動を観察して、その行動を学習する過程のことである。行動療法では、クライアントに適切なモデルを提示し、モデルの行動を観察させて、不適正な行動を消去したり、適応的行動を獲得させたりする。

(『心理学理論と心理的支援』中央法規出版, p. 199)

4 適切でない。ロールプレイングは、SST（社会生活技能訓練）で用いられる技法であり、社会生活場面で生じる人間関係の役を演じることである。SSTでは、社会生活をする上で誰もが経験するような場面を設定し、そこでの対人関係場面を設定する。例えば、職場の同僚役の人に対して、クライアントは、あいさつの仕方や言葉遣いなどをロールプレイングによって練習する。

（『心理学理論と心理的支援』中央法規出版，p.207）

5 適切。家族療法では、家族はその構成員が相互に影響し合う1つのシステムととらえるシステム理論が用いられる。家族療法では、家族の成員が表す不適応や問題行動は、その個人だけが原因と考えず、家族が相互に影響し合って原因と結果が生じているので、家族というシステムの問題として考え、特定の個人ではなく家族全体にはたらきかける。

（『心理学理論と心理的支援』中央法規出版，p.204）